

## 東北大学 EMLP 成果報告会参加報告（2015.4.26）

---

小林雄志（熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻 特任助教）

2015年4月26日（日）に東北大学 東京分室会議室 A・B（サピアタワー10F）において、東北大学高度教養教育・学生支援機構（旧 高等教育開発推進センター）が平成25年度から2年間にわたり実施した履修証明プログラムである「大学教育人材育成プログラム(EMLP)」（Educational Management and Leadership Program for Higher Education Innovation）の報告会が開催された。

本履修証明プログラムは、平成22年に文部科学省から教育関係共同利用拠点の認定を受けて進めてきた事業の一つとして実施され、参加者8名が2年の間にセミナーへの参加、海外での調査活動、アドバイザーや参加者同士の討議などを通じて、各所属機関における改革課題に取り組むための学習を120時間以上実施してきたものであった。報告会では羽田貴史副機構長のあいさつに始まり、杉本和弘教授の概要説明の後に8名の参加者がそれぞれの成果について各25分間で発表、質疑応答をするという形式で実施された。

参加者が取り組んだテーマとしては「グローバル人材（あるいはグローバル人材）」や「教育の国際化」に関するものが多く、各大学・学部の特徴を生かした人材育成の課題とそれらを解決するための取組・今後の計画についてかなり詳細な提案がなされていた。また、改革を進めようとしてもなかなか大学本部が動き出そうとしないことへの葛藤や、社会的に評価の高い大学においても多くの問題が内在していることなど、普段は聞くことのできない本音の部分を耳にすることができた。更に、会場の雰囲気からは非常にアットホームな雰囲気が感じられ、海外研修を含む2年間のプログラムを通して少人数の参加者および教員の方々が綿密な人間関係を築かれた様子がうかがわれた。本プログラムは、我々が開発を行っているプログラムとは異なり主に大学全体の改革を推進するイノベーターを養成するものであったが、教育改善を目指す「履修証明プログラム」として実施され、メンター教員との綿密な討議による改革案の作成が行われている点については共通するところがある。また、参加者の所属大学はさまざま（関東・関西等、半数が東北以外）であり、こうした遠隔地からの参加者に対する履修証明プログラムの事例として、その実施形態（eラーニングの活用状況等）についても得られた情報をもとに参考にしていきたい。